

リンチ症候群と大腸内視鏡検査について

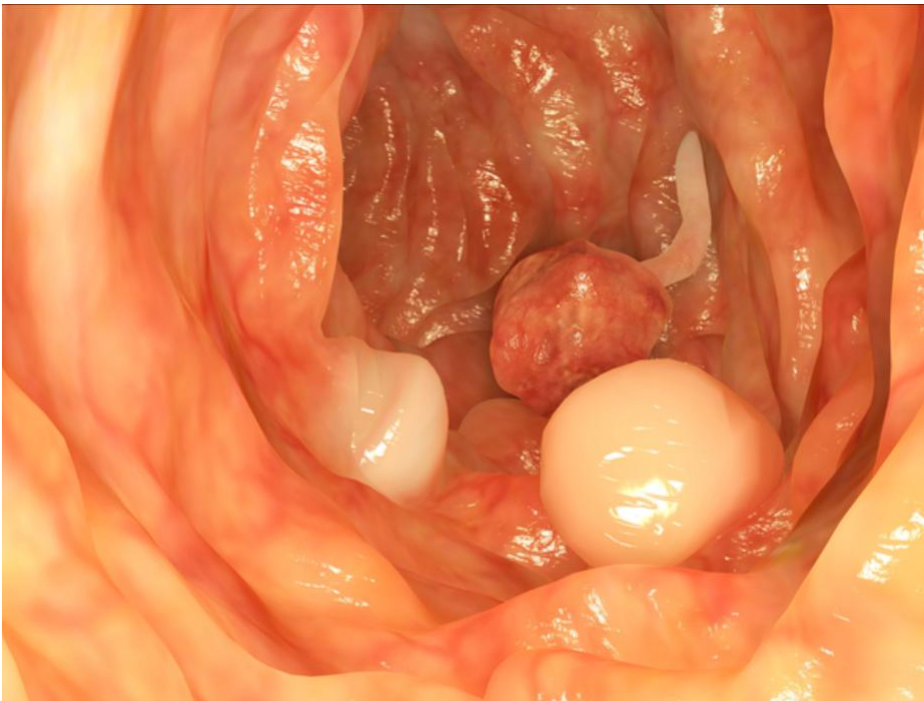
遺伝的要素が大腸がん発生に影響を及ぼしている病気を遺伝性大腸がんといいます。

リンチ症候群（＝遺伝性非ポリポーシス性大腸がん：Hereditary Non-Polyposis Colorectal Cancer：HNPCC）は遺伝性大腸がんの1つで、大腸や子宮内膜、卵巣、胃、小腸、肝胆道系、腎盂・尿管がんなどの発症リスクが高まる病気です。



全大腸がんの 2-5%程度がリンチ症候群 (HNPCC) と考えられ、最も頻度が高い遺伝性腫瘍の一つとされています。

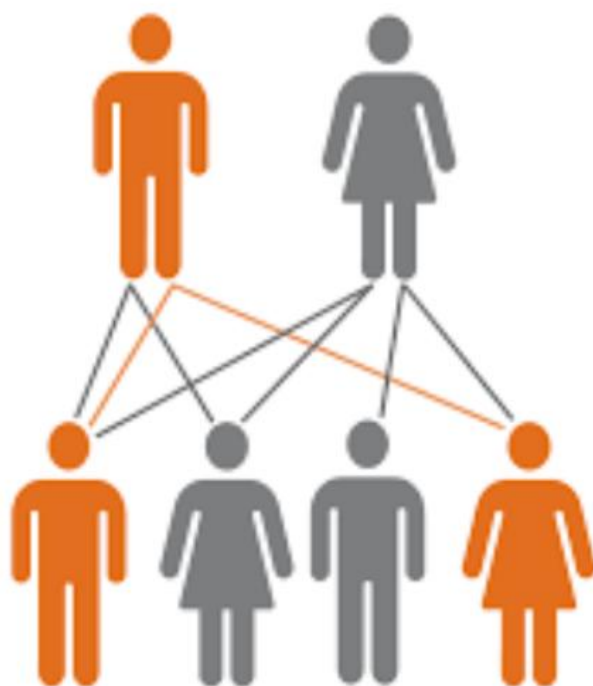
リンチ症候群 (HNPCC) の診断には大腸内視鏡検査が必要です。



リンチ症候群の内視鏡像

[Genetics Home Reference - NIHより引用](#)

リンチ症候群（HNPCC）の原因は、ミスマッチ修復遺伝子(MSH2・MLH1・MSH6・PMS1・PMS2)の変異を原因とする常染色体優性遺伝。子供に50%の確率で遺伝します。



リンチ症候群（HNPCC）の平均発症年齢は43-45歳、約80%が生涯の間に大腸がんを発症します。また、女性では、20-60%が生涯に子宮内膜がん（子宮体がん）を発症します。



----- 補 足 -----

リンチ症候群の診断基準

アムステルダム基準 II（1999 年）

1. 家系内に少なくとも 3 名の HNPCC に関連した腫瘍（大腸がん、子宮がん、小腸がん、尿管あるいは腎盂のがん）が認められること
2. そのうちの 1 名は他の 2 名に対して第一度近親者（親、子、兄弟）であること
3. 少なくとも 2 世代にわたって発症していること
4. 少なくとも 1 名は 50 歳未満で診断されていること
5. 家族性大腸腺腫症が除外されていること
6. 腫瘍の組織学的診断が確認されていること